

目的・目標にあった資産運用をするには？

もっとも適した資産の組み合わせ（これをポートフォリオといいます。）は、投資家一人一人ごとに異なります。もっとも適したポートフォリオを選択するには、まず始めに投資家の投資目標を明確化することが重要です。

投資目標とは具体的には、投資期間、目標収益率、どこまでリスクをとれるか、ということであり、これらは投資資金の性格やリスクに対する態度によって決まります。

ひとつのケースを考えてみましょう。運用を始めようと考えている Aさんと Bさんがいます。Aさんと Bさんの状況は次のようになっています。

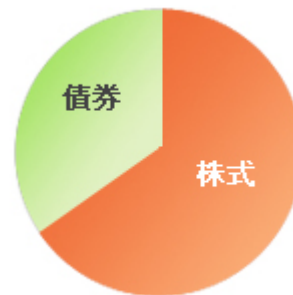
	Aさん 53歳 妻と子供2人の4人家族	Bさん 30歳 独身、資産家の親を持つ
投資できる期間	比較的短い	長い
客観的な家計状況	教育費・住宅ローンがあるので、 余裕なし	全てのお金は自分のために使うので、 余裕あり
主観的なリスクに対する態度	石橋をたたいて渡る、 「慎重派」	何事にもチャレンジする、 「積極派」

では、AさんとBさんにとってそれぞれ適した組み合わせ（ポートフォリオ）は次のうちどれでしょうか。

安定型ポートフォリオ
リスクを抑えた資産配分
(債券や短期金融資産が中心)

バランス型ポートフォリオ
リスクを分散した資産配分
(株式・債券に分散投資)

積極型ポートフォリオ
リスクをとった資産配分
(株式が中心)

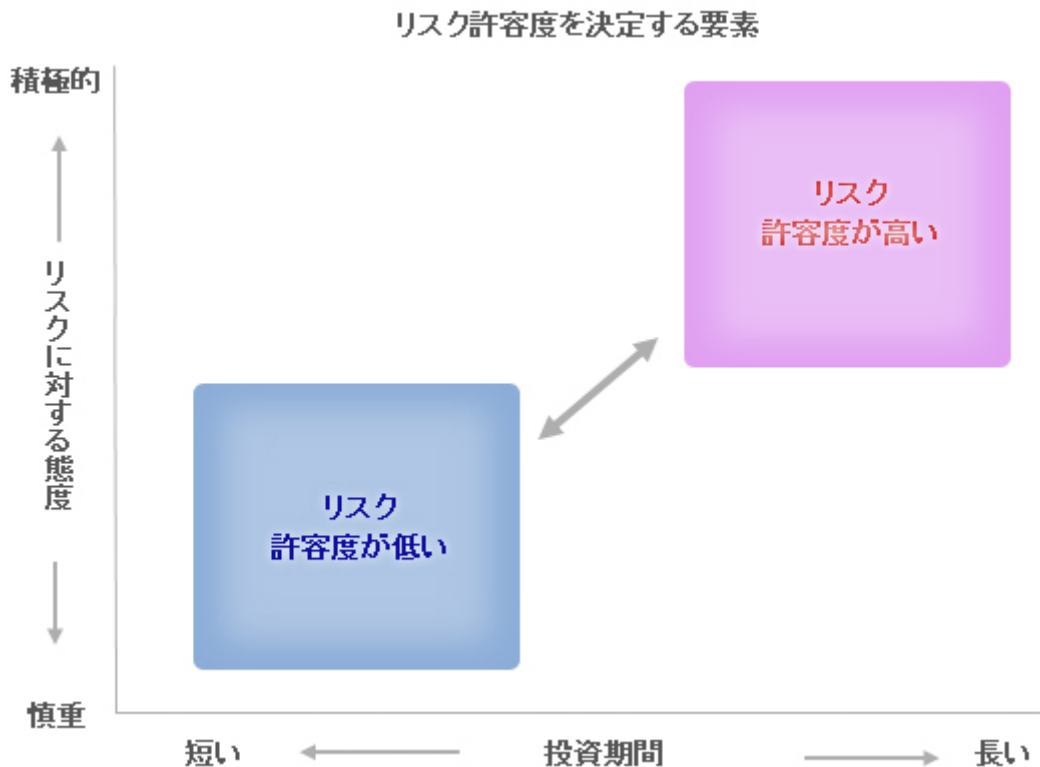


投資家がどれだけ運用資産の値動きに耐えられるか、つまり、どれだけリスクを許容できるか、その程度を表したものを「リスク許容度」といいます。

リスク許容度を決める要素は、大きく2つに分かれます。

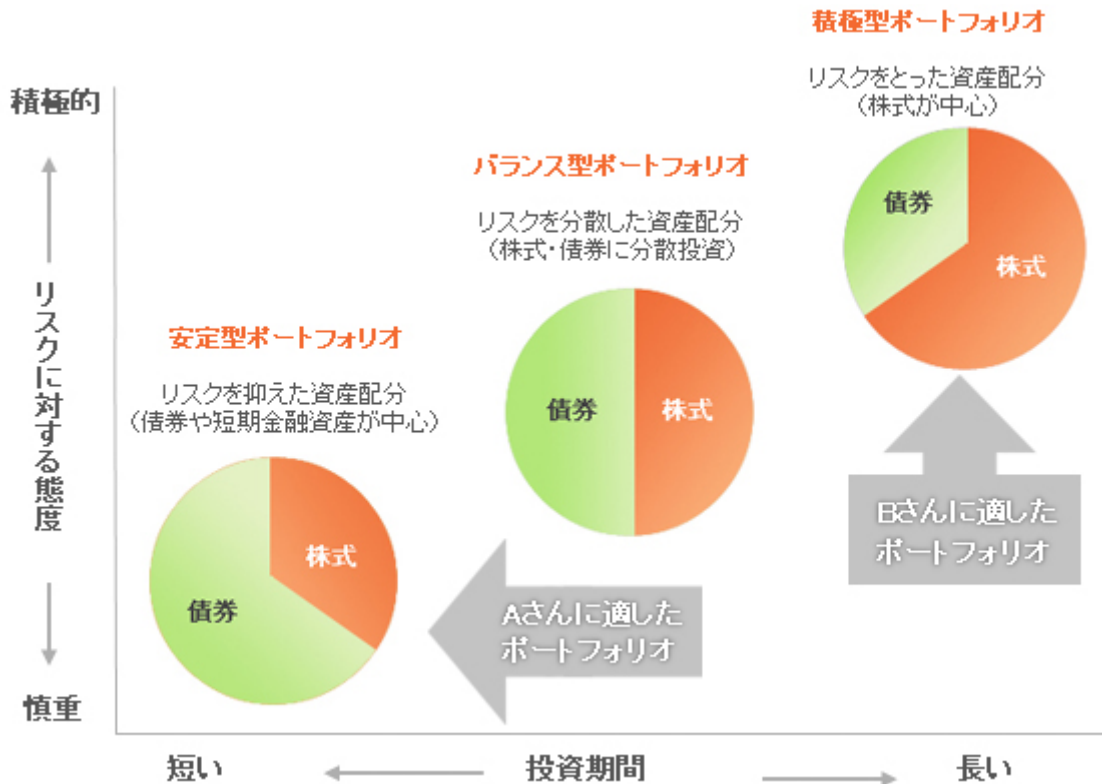
1つ目は「投資期間」です。投資期間が短い人は、あまりリスクを多く取らないほうが良いでしょう。なぜなら、運用を行っているとき短期的に運用資産の価値が大きく下がることがあります。下落する以前の水準に回復するには相当の時間がかかることがしばしばです。投資期間が短い人はこの回復が完了するまでに投資期間が終わってしまうかもしれませんので、投資期間が短い人はリスクの高い運用は避けたほうが良いのです。

2つ目は「リスクに対する態度」です。価格変動リスクは絶対に避けたいと思う人もいれば、リスクを積極的に取ってインフレを十分に上回る投資成果を得たいと思う人もいます。リスクに対する態度は投資家の主観的な要素です。



さきほどの Aさんと Bさんがどの程度のリスクをとれるか考えてみましょう。

投資期間が長く、リスク許容度が高い Bさんは、株式を多く組入れた積極型ポートフォリオが適当であると考えられます。一方、投資期間が短く、リスク許容度が低い Aさんは、債券などリスクの低い資産を多く組入れた安定型ポートフォリオが適当であると考えられます。



では個人のリスク許容度は、ずっと変わらないのでしょうか？ 答えは「No」です。まずリスク許容度の1つ目の要素である「投資期間」について考えてみましょう。

年齢が高くなるにつれ投資期間は短くなっていくこととなりますから、20代・30代の人の投資期間と、50代の人の投資期間は明らかに異なります。

リスク許容度の2つ目の要素である「リスクに対する態度」も変化する場合があります。

例えば株式への配分比率を多めにしたものの、思っていたより価格変動が激しく落ち着かない、という場合は株式への配分比率を低くするほうが良いでしょう。また、運用を行って目標金額を大きく上回ったので、リスクを取る必要がなくなった、というケースもあるでしょう。

<重要事項>

Copyright ©2017 Ibbotson Associates Japan, Inc. 当資料はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社の著作物です。イボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社の承諾なしの利用、複製等は損害賠償、著作権法の罰則の対象となります。

当資料は、投資助言ではなく、情報提供のみを目的としたものです。いかなる投資の推奨・勧誘を行う、あるいは示唆するものではありません。

当資料に運用実績を表示している場合は、過去の実績又はシミュレーションによるものであり、将来の運用成果の獲得を示唆あるいは保証するものではありません。資料上に図表等で、将来時点に関する計算結果や数値を例示している場合は、仮想的な特定の条件のもとでの計算結果や数値の例示を目的としています。当資料に記載されている情報、データ、分析、レポート、意見は、当資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。

当資料に掲載している情報は、イボットソン社が信頼できると判断した資料に基づいていますが、その情報の正確性、完全性、及び将来の市況の変動等を保証するものではありません。

イボットソンは、法律により定められている場合を除き、本レポートの情報、データ、分析、意見を利用して行いたいかなる投資の判断、損失、損害に責任は負いません。

当資料にある指数はそれ自体運用商品ではなく、直接投資することはできません。

過去のパフォーマンスは将来のリターンを保証するものではありません。

Morningstar の商号、ロゴは Morningstar, Inc.の商標登録です。当資料には、Morningstar の専有情報が含まれており、Morningstar から事前の書面での承諾がない限り、当資料の一部あるいは全ての複製ならびに再配布等の使用はできません。